

女性の生き方は進化する

男女共同参画コーディネーター
八幡（谷口）彩子（教育学部准教授）



私は、この5年ほどの間、教養教育の学際科目「女性と職業」にオーガナイザーとして関わっています。この授業の背景にあるのは、熊本大学における次世代育成支援と男女共同参画の取り組みです。

2005年、熊本大学では「熊本大学次世代育成支援行動計画（第1次）」を策定し、翌年2月には、フォローアップに関わるキックオフシンポジウムを実施しました。この行動計画策定とシンポジウムに関わった早野恵子熊本大学医学部附属病院医師（当時）と本尚美同看護師長（当時）の協力を得て、2006年4月に誕生したのが学際科目「女性と職業」（1単位科目）です。そして、熊本大学で男女共同参画に関する意識が高まる契機となった科学技術振興調整費「女性研究者モデル育成」事業への採択（2006年）。この科目は、その後、日和田キャリア支援課長のご助力を得て、本学の卒業生や県内各分野で活躍している方を講師にお迎えする2単位科目に成長しました。今では、毎年約150名の熊大生がこの授業を受講しています。受講生の皆さんは、講師からの熱いメッセージを受け止めるとともに、将来直面するであろう人生のさまざまな局面をシミュレーションしながら、自分自身の将来の職業と生活について具体的に考えています。

また、2010年度は、文部科学省の男女共同参画学習課との連携の下、授業を行うことになっています。

その一方で、この9月には、教育学部附属中学校にお邪魔し、「女性と職業：ワークライフバランスの実現に向けて」というテーマで話をしてきました。

私の話の主な内容は、①日本の年齢階級別労働力率を示すグラフを見ながら、女性と職業に関する現状と課題を考えること、②内閣府「ワークライフバランス調査」（2010.2）のデータから、ワークライフバランスを実現するためには職場の協力が必要不可欠であることを理解してもらうこと、③熊本大学における男女共同参画の取り組みについて紹介すること、の3点です。

話の最後に、日本人初の女性宇宙飛行士となった向井千秋さんと、そのわずか10数年後に、一女の母となってもそれをハンディキャップとせず宇宙へ旅立った山崎直子さんを2010年のホットな話題として紹介し、「女性の生き方は進化する」というメッセージを送りました。話を聞いた中学生の皆さんが、いきいきと自分のやりたいことにチャレンジしてほしい、という願いを込めて。

「ワークライフバランス」という言葉を初めて聞いた、という人がほとんどでしたが、「(共働きの)親が仕事に使えるための時間を増やせるよう、家の手伝いがんばりたい」「チャレンジすることの大切さがわかりました」「女性の壁を乗り越えるため、自分から率先して仕事をがんばりたい」「男性が育児しやすい環境を作ることが大切」「家族での会話の時間を増やせば手伝いがしやすくなるのでは」「子供を産んでも損をしないための制度作りが大切」など、自分の生き方や社会のあり方に関する意見や提案がありました。

中学生と交流をして強く思ったのは、素直に将来をみつめる若い世代がのびのびと自分らしく生きていくために、私たちの世代は率先して環境整備に取り組んでいかなければならない、ということです。

そのための取り組みを、皆さんと協力して進めていきましょう！